

你好 33号

35周年を迎えた
中国語を学ぶ会
神奈川県平塚市

中国語を学ぶ会

平成23年7月 第33号発行

連絡先

渡邊
090-8588-2430



『中国語を学ぶ会』38年目

会長 渡邊 敏行

1973年にスタートし、諸先輩の努力を頂き、この「中国語を学ぶ会」も今年で38年間の歴史ある会になりました。

2011年1月の“広報ひらつか”に見学会の告知をお願いし、会ホームページでも情報を発信しましたおかげで、新規加入者が10名となり、在籍44名の世帯が出来上がりました。

また、4月には恒例となった研修旅行も“江南・山西省へ8日間の楽しく有意義な体験をエンジョイできました。

先の東日本大地震では、世界の方々からの温かい励ましや援助があり、改めて世界はひとつであると実感させられ、研修旅行でも中国人からの温かい言葉をいただきました。

これを機に、引き続き勉学に励み、中国人との会話に支障のないよう一層身を引き締めて努力致したいと考えます。



当会は会員皆様全員のご協力で、運営をさせて頂いております。どうぞ宜しくお願い致します。

ホームページアドレス：

<http://www.manabukai.sakura.ne.jp/> 请大家上网查询

新しい役員は次の通りです。

会 役 職	氏 名	ク ラ ス
会 長	渡 邊 敏 行	火 曜
副 会 長	小 野 寺 登	火 曜
副 会 長	小 林 由 紀 江	火 曜
会 計	福 永 静 雄	木 曜
会 計 監 査	佐 藤 真 智 子	木 曜
にいはお編集委員	福 永 ・ 中 島	
ホームページ担当	渡 邊 敏 行	
ク ラ ス 役 職	氏 名	ク ラ ス
月 曜 役 員	久 保 田 利 昌	月 曜
月 曜 役 員 (会 計)	猪 野 早 智 子	月 曜
火 曜 役 員	薄 井 則 久	火 曜
火 曜 役 員 (会 計)	泉 初 代	火 曜
水 曜 役 員	蜂 屋 和 男	水 曜
木 曜 役 員	三 橋 直 行	木 曜
木 曜 役 員 (会 計)	中 島 良 光	木 曜

新会員のアンケート

月曜クラスの吉田宏彦です。

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
顧問をしている会社が、中国に工場を作ることになったので、それを機会に、中国語を始めました。
ただ、この仕事はこの3月にコンサルタント仲間で、中国語ができる若い人譲りました。
それで必要性は薄れましたが、中国語はせっかく始めたので、続けようかと思っています。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
同じ音でも 声調等のわずかの差で、いろいろな意味になるので、覚えるのが難しそう。
中国のことを もっと知る機会に出来ればと思う。

月曜クラス 時村芳枝

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
きっかけは、中国に興味を持ったから…
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
感じている事 教室の雰囲気は、好きですネニ 先生のお話も語学だけでは無く、今の中国の生活感もよくわかるお話もたくさんで…
… ただ、学習面では、私個人のやる気次第だと思いますが…

月曜クラス 中村光子

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
通訳無しで、話したいから、メールもしてみたい。まだ主語が抜け通じない事が、多い。

月曜クラス 久保田利昌

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
中国語を始めようと思ったきっかけは以下の3点が主なポイントです。
退職前の数年間、思いがけず統括した IT 分野部門にてその顧客のメインが台湾・中国に集中しておりほぼ毎月現地に出張した。そのなかで現地顧客のトップクラスと個人的な付き合いを深め、今後も個人的交流を深めたい。

台湾の故宮博物院の収蔵品を是非見たいと思い、02年の春に初めて当地をふらりと訪問し、たまたま現地の方と懇意となりその後もプライベートな交流をしており、台湾の方々との交流を今後も深めたい。
09年末に40年近い会社人生を離れ、“毎日が日曜”の生活がスタートし、ゴルフ・テニス三昧の日々となったが、少しはボケ防止に脳を動かす何かをしないとー。せっかく中国語圏に知人もできたのでそれではその言語や文化を少しでも学んでみよう。

台湾・中国に合計で30回以上も出張しましたが、台湾では代理店のトップの方がとても日本語が達者でしたし、また、中国の顧客はアメリカ系企業や台湾系企業で、かつ交渉相手の幹部クラスはメチャクチャ英語が上手くーと言った具合で全く中国語の必要性を感じないできました。しかし、仕事を離れ個人として中国をより深く知りたい・歴史や文化をもっと直接肌で感じたいと思うとチョットは言葉を勉強をしないとーと思っていたところ、昨年5月初めの平塚広報での当会の会員募集記事を拝見し、早速の参加を決めた次第です。

2. **いま中国語を学んで感じていること。**
昨年5月に当会に参加し早1年がたちました。ピンインとか四声とかの言葉はどこかで聞いたような気がしていましたが、いざ始めて見るとその習得が如何に難しいか痛切に感じている日々です。
① 同じ漢字だから(簡体字である事は別として)、とっていましたが全く発音(読み方)が解らない。
② 一字一字そのピンインを見て発音練習しますが、アルファベット表記の為、ついつい英語的発音をしてしまう。
③ ピンインを覚え(読み方)ても、そこに厄介な四声なる音調が加わりやっと正しい音(単語)になりますがこれがなかなか60歳を過ぎでの初心者には覚えきれない。 と言う訳で悪戦苦闘の1年が過ぎましたが進歩の跡が見えないのが実態です。
全くの初心者にもかかわらず、火曜日クラスにも当初から参加し週2回勉強しているのにー。やはり、少なくとも小生より1年以上努力をされておられる方々とは“語彙力”の差を痛切に感じています。なんとか遅れずにーと思い、予習・復習に励んでいます但其の差は一向に縮まらないのが実態です。
学習スタートして1年のこの3月に台湾、4月に中国を訪問しましたが殆どその成果が見えませんでした。特に、今回現地の方には、“四声を明確に”を強く指摘されました。李老師の丁寧な発音や解説をもっと

もっと吸収し、少しずつでも良いからステップアップを図って行きたい。
アルコール吸収レベルは着実にステップアップしてますがー。

月曜日クラス 堀下瑞子

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
主人が会社でしばしば中国に行き、挨拶くらいはと習い始めたので、私もボケ防止にと始めました。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
以前、ハングルを習っていたので、アジアのルーツを感じますね！

星期一班 加藤由子

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
私が中国語を学ぶようになったのは、以前から中国語に興味があり、ずっと勉強したいと思っていたのと、中国語の知り合いの方と少しでも中国語でお話したいと思ったのが、きっかけです。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
中国語は英語と文法が似ており、規則性もあるため比較的覚えやすいのですが、日本語にはない発音には、やはり難しさを感じます。しかし、同じクラスの方が親切に教えてくださったり、李先生の中国の文化的なお話もとても興味深いです。語学を学ぶ楽しさを、今改めて感じています。今後も楽しく学んでいきたいと思っています。

月曜クラス 金井恵伊子

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
中国語の響きに憧れていました。
日本の海上保安庁に人が中国漁船に向かって中国語をしゃべっているのを聞いた時身近に感じるきっかけとなりました。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
とてもとても難しく、単語も覚えられません。上手に話せるのはいつのことやらです。でもいつか杭州へ行きたくなってきました。これも本の影響です。(甘苦上海)

火曜クラス 四宮朝子

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
ボケ防止のため

2. **いま中国語を学んで感じていること。**
学べば学ぶほど難しい。

月曜クラス 真間あけみ

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
大変申し上げにくいのですが・・・
中国語に対して強い思いがあり始めたわけではありません。子育ても一段落し、これからの死生観について考えました。
自分の時間を色々な事にチャレンジして年齢を重ねたいと思っています。市民講座の中国語の時間が空いていた時間に合っていたので始めたのがキッカケです。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
大変申し訳ありません。
中国について良いイメージがありませんでした。しかし、李老師をはじめ他老師の人柄に触れ社会事情等をお聞きする事で中国に対する印象や考えが変わってきました。中国語は難しいですが先輩方も親切に教えて下さり、とても感謝しています。皆さんの足手まといにならないよう追いかけて行きたいと思います。宜しくお願い致します。

月曜クラス 山田啓一

1. **中国語を始めたきっかけを教えてください。**
退職前の前職が 中国事業所(深淺 上海)への新機種の開業業務を行っていた関係から、中国の人とのやり取りもあり、中国語が喋れたらもっと良い仕事が出来たなと思った事と、中国への出張時の中国の印象が非常に良くて、少しでも話せたら観光も含め行動範囲がもっと広がったし、またこれからの観光の事も考え勉強をしようと思った。
2. **いま中国語を学んで感じていること。**
始めたのが遅かったと言うか覚えが悪いって言うか？
何しろ単語がなかなか、ぜんぜん覚えれない。四声もここが一番難しいと感じている。
でも今回の勉強で良かったのは、中国文の出来方、文法が少し分かった様な気がします。
とんでもなくヒヤリングはだめだ(まだまだ修行不足かな?)

研修旅行記

楽しかった旅行

星期四佐藤 真知子

2011年4月23日～30日までの中国旅行は私にとって一番長い旅でした。帰って2、3日はうろうろぼんやりして過ぎてしまいましたが毎日のスケジュールが戻って又忙しく過ごしています。

とりあえず自分で撮った写真で楽しんでます。一番心配だった夜行列車も無事通過北京の旅もスリル満点で結構楽しむことが出来ました。故宮での風と黄砂でせっかくのサウナも役に立たなくて、でも休日の北京の人ごみもたっぷり味わえてスーパーの買い物で友達への義

が済んで最後の食事の蓋飯の山盛りの茄子、美味しかったこと！残したのが悔やまれます。

平遙から五台山までの車の移動で車窓に広がる荒涼たる乾ききった山や平地に挟まった部落、どうやって暮らしているのか、黄砂だけでも大変ですね。私も贅沢いわないで身を引き締めて生きようと思っています。中国に対する見方も見聞も広がり今まで以上に興味が沸いてきました。侯徳建の《竜的伝人》を思い出してテープは在ったものの歌詞が不明瞭、でも又聞いてみる積もりです。中国は広いな！と再確認できた楽しい旅でした。皆様には大変お世話になりました。



中国語研修旅行（華北の旅）

月曜クラス 久保田利昌

昨年5月の入会以来待ちに待った“研修旅行”が実現しました。現役時代最後の数年は、俗に“韓・台・中”と一括して称せられる地域に主要な顧客があり毎月このどこかへ出張していました。中国にも上海・蘇州が殆どでしたが四川省（成都）・広東省（広州・深圳）・北京も訪問しました。しかし残念ながら、ゆっくりと観光をする機会はおく僅かしかありませんでした。当会に入会したきっかけも、中国に馴染みを感じたのであれば、“言葉を理解し歴史や文化を少しでも感じる事”ができればと思ったからです。

その様な訳で特に今回の研修旅行先は、洛陽・平遥・五台山・大同と正に中国の都市国家形成の発祥たる周（春秋戦国）から秦・漢（前後）・晋（五胡十六国）に至る時代の中心地域を巡る行程であり特に洛陽を軸とした中原地域訪問は大変魅力的なものでした。

最初の訪問地の洛陽では、本来の目的である“中国語の研修”として当地の学生（河南科技大学日本語科）との交流を行いました。3年生の彼女達（若干男子学生もいましたが）のレベルの高さにはとても感心しました。なお、その後メールの遣り取りで彼女達は百人一首を教材に動詞の活用型まで学習しているとの事に益々驚きです。それに引き換え、小生の中国語のレベルの低さを初日から思い知らされました。と、言うことでその後は全くの観光旅行に徹する事にいたしました。龍門及び雲崗石窟の何百年にも亘る壮大かつ繊細技術、紀元前後以来から脈々と続



く城郭都市、また少林寺の完全なる観光ビジネス化と、

どこも今回訪問した先々で今までの訪問先の北京や上海とは何か異なるスケールの大きさと生活の逞しさを十分堪能しました。小生の好きな宮城谷昌光の春秋戦国時代を背景にした小説の主人公達がこの壮大な中原地域を舞台に国取りをしていた雰囲気を実感できたことが何よりの成果と思えました。今回の研修旅行先は一般のツアーでは訪問しにくい地域を要領良く（とは言え、かなりバスでの移動はハードですが）体験できた素晴らしい一週間でした。

本来の中国語の研修では、最初の学生との交流で、またメンバーと別れ別途再訪した上海・蘇州で、なかなか会話が通じませんでした。原因は基本である“四声”を如何に明確に発生するか、に鍵がありました。本人は勉強したとおり（とあって）発生しているつもりでも相手からは“曖昧”に聞こえるので何を言っているのか、となるようです。現地所員にその事を強く指摘されました。初めてトライし難しさを実感できたのも成果です。また、旅行中の昼夜を問わずの“啤酒・白酒”の飲酒研修も同様。それにしても、皆さん本当にお若い。早、来年の研修が待ち遠しいです。また皆様のご参加を期待します。 以上



中国三大石掘見聞録

木曜日クラス 竹内克司

中国語を学ぶ会の有志による中国(研修)旅行に初めて参加しました。
2年振りの中国は相変わらずホコリっぽく、今回は黄土高原周辺の為、

特にひどく太陽は満月の如く青白く輝いていました。

今回の旅の魅力の一つは、中国三大石窟すなわち、敦煌の莫高窟、洛陽の龍門石窟、大同の雲崗石窟の内、龍門石窟と雲崗石窟の二つが見学出来ることでした。

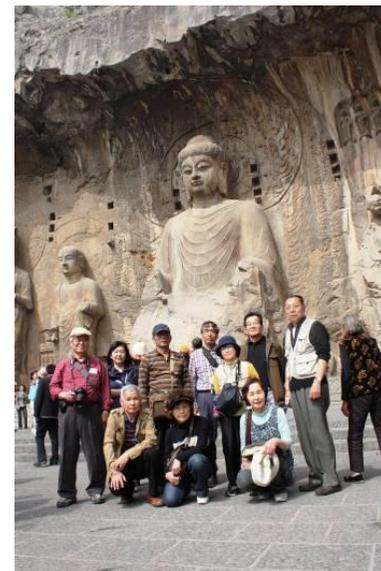
龍門石窟は2度目の訪問でしたが、前回は雨の中の見学の為、雨傘と濡れるのが気になり落ち着いて見学出来ませんでした。今回は晴天に恵まれ龍門石窟最大の規模を誇る奉先寺の則天武后をモデルにしたとされる盧遮那仏などを心置きなくゆっくり見学出来ました。雲崗石窟は初めて見学しましたが、乾燥地帯のせい、石窟の前の木造建築物や彩色壁画が一部残っており、世界遺産に相応しい素晴らしいものでした。

さて表題の“三大石掘”は三大石窟の間違いではありません。私が勝手に名前をつけたものです。人体の一部で長年かかって石に穴を穿ったもので、印象的だったものに、ある種の尊厳を込めて三大石掘と呼んでみました。

一つ目は西安郊外の温泉地である華清池にある楊貴妃達が入ったといわれる湯船の底に穿たれた踵の跡です。入浴した時に足マッサージに代わり自分で踵を湯船の底にトントンと打ち当てていた跡との事でした。見事に規則正しく並んでいました。

二つ目及び三つ目は今回の旅行で目撃しました。

二つ目は、嵩山の少林寺の千仏殿の中にあつた少林寺拳法修行時の床を穿った足跡です。一つ目と違い修行の厳しさを彷彿させる力強い足跡でした。前回訪問時は修理中のため見えなかったため、今回見えて



良かったです。

なお、杉の木の幹に残る指の突きにて穿たれた穴は、対象物が石でなく木材の為、石掘の対象とはしません。三つ目は、平遥の古衙署（昔の県の役所）の裁判を行う場所（日本のお白州）で目撃しました。

裁判官の席に向かって右側に原告、左側に被告がそれぞれ跪いて判決を受けたとの事です。お白州の左側には棒打ちの刑用の棒等の恐ろしげな責め具が立てかけられていました。原告の席には膝の跡が一人分、丸く二つの凹みが穿たれていました。被告の席には二人分、四つの凹みが穿たれていました。しかしその形状は原告席の凹みとははっきり違いました。

原告席の形状は膝頭とつま先で座り、裁判の結果を期待して待っているのが想像出来る様な丸い膝頭に符合する凹みでした。

一方、刑罰が待っている被告席は、四つの凹み共、力を落とし、ぺたりと座り、ガタガタ震えていたのか、丸ではなく、膝頭と向こう脛の楕円形の凹みでした。

“三大石掘”とも数百年の歴史が刻んだ、ともすると見落としかねない小さな遺跡ですが、そこで楽しみ、修行し、生活した人々の歴史を偲ぶと、大変興味深いものがありました。

なお、三大石掘の第一は膝頭としたいとおもいます。



中国 河南・山西省の世界遺産を巡る旅

星期二班 薄井則久

4月23～30日まで「中国語を学ぶ会」の仲間男性6名、女性4名の10名で中国は河南、山西省の旅をした。

今回は、昨年の福建省アモイ・客家土楼の旅をした6名と新たな仲間4名との旅となった、クラスは異なるが同じ「中国語を学ぶ会」のメンバーであり、なにより「中国をこよなく愛する」仲間との旅である。又、この旅は中国語を勉強している成果を実践する研修旅行（名目は）で、洛陽河南科技大学の学生さんとの交流会が組まれている真面目(?)な旅でもある。

今回の旅行先は河南・山西省で洛陽・平遥・太原・大同・北京といった街を巡り、中国三大石窟の内の2ヶ所を訪れたり、平遥古城では終日、城壁の上や城内の街並みを散策。日々の夕食は、ホテルを出て中国の市民が利用している店に入って食事を取るなど個人旅行ならではの旅を楽しんで来た。

4/23(雨) 旅行1日目 定刻9:45に羽田を発ったJAL023便は、12:50北京空港に到着。北京は晴れ！

当初の計画では出発地は成田であったが、東日本大地震の影響で成田の便が欠航となり羽田発に変更となる。

この変更が幸いし、北京から洛陽への乗り継ぎ時間まで北京で約5時間の余裕が出来て、北京市内を観光するという「おまけ観光」をすることになった。

北京空港では、今回の旅行の手配して頂いたAraChinaの邹进(Zou Jin)さんが出迎えてくれた。

彼女は、渡邊さんの今までの中国旅行の手配を幾度となくしていることもあって、洛陽での出迎えを北京に変更したとの事。北京へは休暇を取って、12時間余りをかけて桂林から列車に揺られて来たらしい。

私たちの北京～洛陽への乗り継ぎ時間の空き時間に北京ガイドするという、その心遣いに感謝、感激である。



荷物を預け、空港から地下鉄に乗って北京市内の前門駅まで行き、前門街周辺を散策することにした。地下鉄が前門駅に近づくと「到达了前们站」のアナウンス。判る、判る「前门站に着いた」と言っている。

やはりその国の言葉を覚えるのは、現地で聞くことが一番だなと思ったのは私一人だったでしょうか。

前門街のメイン通りは、おしゃれなブティックや老舗のレストランなどが並んでいるが、裏通りは東京のアメ横のような賑わいをみせていた。中国に着いたばかりなのに早くもお土産とは気が早いかな？と買い控える。

女性4人と同行した私は、北京ダックで有名な「全聚徳」の店頭で販売



していた北京ダックを皆さんと丸かじり。19:20の便で洛陽に向う。洛陽空港は省エネが徹底しているのか薄暗い。暗いロビーでガイドの李さんが出迎え。空港からホテルまでの移動バスの中で、早

くも洛陽の歴史のガイドを始めた。古都の洛陽に思い入れがあるのだろう熱をおびた説明が続く。洛陽は牡丹の花で有名であるが花盛りは過ぎてしまったような話に残念！

4/24(晴) 旅行2日目 今日洛陽河南科技大学の学生さんとの交流会と嵩山少林寺や塔林の観光。

朝早く起きホテルから徒歩で20分、牡丹の名所といわれる「王城公園」に出かける。入園料は50元少々高い！

昨夜の説明では牡丹の花が終わったようだと言っていたがとんでもない。牡丹の花は真っ盛りであった。

公園は朝6時というのに大勢の人々が音楽のボリュームを目一杯上げて、太極拳をやっている。

洛陽の朝は朝日を浴びた楼閣、太極拳、牡丹の花の香りで明け、旅情は一気に中国ムードに入りました。

今日の午前中は、中国語研修ということで向う先は「洛陽河南科技大学」。学生さんとの交流会である。

中国の大学生との交流会は、昨年の福建省廈門の「厦門理工学院」に続いて2度目の体験である。

この企画、渡邊さんの発案であるが私たちの中国語がどれだけ通じるのか、実践をするまたとない機会である。

去年は日本語で終始してしまったが、今回は自己紹介と日本の四季の紹介を中国語でしようと準備をした。

大学の教室に入ると、学生10名と日本語教師（中国人の方）が私たちを暖かく拍手で出迎えてくれた。

私の相手は「張敏」という名の3年生の女子。お互い自己紹介





が終わったらいきなり「薄井さんは、中国語をなぜ勉強しているのですか？」と聞いてきた。「ウッ。想定外の質問！」返答は「中国を旅行する時に会話が出来ればと思って…」と日本語で言ってしま

った。TVで”とっさの中国語”など見えますが駄目ですね。

その後は彼女が貿易関係の会社に就職希望とか、私が持参した「ひな祭り」や茅ヶ崎の「浜降り祭」の写真を見ながら会話が弾む。私の「日本の四季」の紹介は発音を直されながらも通じた(?)ようだ。

交流会は1時間の予定。会話は尽きないので、この後の観光予定である「洛陽博物館」へも同行し、交流会の続きを展示品を見ながら行い、その後、昼食を学生たちと一緒に取ることに予定変更。(この自由さが良い)

大学を出てまもなく、私たちの乗っているマイクロバスが左折してきた車と接触事故を発生！。警官が出てきて事情聴取が始まった。一方、車内は学生との会話で盛り上がり、接触事故なんてなんのその！

事故は左折した相手方が悪いことになり、200元をその場で払って示談成立！なんと中国らしい(?)解決策。

その後、バスは4月16日オープンしたばかりの「洛陽博物館」へ。館内見学は交流会での会話相手の「張敏」と会話の続きをしながら見て回った。館内は中国歴代王朝”夏”から”唐”時代までの宝物が展示されている。

その展示品の品々は質・量共、とても日本では見る事が出来ないような物ばかりで見学時間が足りなかった。

昼食会は学生を交えて和やかに会話が弾み、大学に戻る車中では日本語で”ふるさと”など歌って盛り上がり、大学まで送り届けた学生達と別れを惜しんだ。学生と私たちはそれぞれ手を振って”再见！再见！再见！”

学生と別れた後、洛陽から車で約1時間半の「登封市嵩山少林寺」に向う。

この嵩山少林寺周辺には、多くの武術学校があり、中国全土から数万人の若者が武術の修練に励んでおり、卒業後は軍人・警官・体育教師・警備会社等に就職すると李さんの説明。容姿美麗な者は映画・TVのアクションスターの道に進む人も……。

少林寺を参拝し、野外の舞台ショーと武術館(こちらは練達者)の少林寺拳法ショーを観て、車で10分程移動し「塔林」を訪れる。塔林とは少林寺の歴代僧侶の墓所で、塔林の名が示すように塔が林のごとく立ち並んでいる。

唐代から清代にかけてレンガで出来た240余りの塔の数々は、中国の39番目の世界遺産であった。

4/25(晴)旅行3日目 洛陽は温度が36度位になるらしい。今日は洛陽郊外にある「龍門(龍門)石窟」と”白馬寺”の観光。その後、車で8時間かけて平遥に向う長旅となる。

龍門石窟は、北魏が平城(現在の大同)から洛陽に遷都した494年頃から唐代にかけて、約400年にわたって造営され続けた中国三大石窟のひとつで、2000以上の石窟に10万体の仏像が安置されている仏教遺跡である。

龍門石窟は黄河の支流伊水河の両岸に1キロにわたり彫られており、今回観光するのは西山の方である。



「龍門」と書かれた大きな山門をくぐると、伊水の川面を渡ってくる涼風が洛陽の暑さを忘れさせる。

石窟に彫られた大小数々の仏像を参拝しながら、龍門を代表する磨崖仏が鎮座する「奉先寺祠」に辿り着く。

石段を下から登っていくと高さ17mの盧遮那仏の頭部が現れ、やがて全身が目に入りその姿に圧倒される！。

仏像は大きく、端正で穏やかな顔であった。この仏像は日本の奈良の東大寺大仏のモデルと言われている。

大仏坐像を中心に左右に仏弟子、菩薩、天王、力士の巨像もそれぞれの役割で優しく、荒々しく迫ってくる。

龍門の石窟は1970年前後の文化大革命の時、仏教否定で多くが破壊されてしまい、首のない仏像や顔半分が削り取られた仏像が数多くあり、その痛々しい姿には言葉を失う。

伊水河に架かる橋を渡って対岸から奉先寺の大仏や、蜂の巣のように穿かれた石窟群を遠望する。圧巻である。

昼飯は洛陽名物「水席料理」。昨日、少林寺の帰りに食べる予定であったが、帰り時間が遅くなって食べられなかった郷土料理である。店に入ると宮廷衣装を身に着けた女性が銅鑼を派手に叩いて出迎える。

水席料理とは、乾燥地域である洛陽ならではの水分補給を目的に、スープを多用した郷土料理のことで前菜とスープ料理十六品はどれも食べたことのない

数々の料理。さっぱりとした料理はどれもが美味だった。

午後は中国最古の仏教寺院白馬寺を参拝。白馬寺の創建は68年（なんと西暦2桁の時代です）日本への



仏教伝来は538年なので、日本へ仏教が伝わる約500年も前に中国は寺院を建て仏教を受け入れていたことに驚く。

山門をくぐり、中国に仏教を伝えたインド僧の土塚、インド僧がせっせと仏典を漢訳した「清凉台」などを見て回る。境内の裏手には空海の像が建立されていた。空海は804年長安（今の西安）への留学の道中に、この白馬寺に滞在し碩学したと碑文に記されていた。空海31歳の時である。

午後3:30 九朝の古都といわれた洛陽に別れ、次の目的地山西省晋中市平遥県の平遥古城に向う。

当初の旅の計画では洛陽～平遥は夜行列車での移動であったが、座席確保が出来ずバスでの移動に変更となる。

結果、洛陽滞在時間は少なくなったが平遥古城に今日中に入ることが出来、翌日は朝から終日平遥古城を見て廻れる日程になり、私としては願ってもない変更となった。

平遥への道は、山岳地帯を貫いたトンネルの多い高速道路で、長治市～太原市間を結んでいる。「太長道路」と呼ばれ「ドライバーには大変、距離の長い区間の道路で敬遠されている」と運転手が言っていた。

途中ドライブインで缶ビールとおつまみを求める。缶ビールは4元（50円位）ビール党の私には嬉しい値段だ。

マイクロバスの車窓からはヤオトンが点在する農村風景が見られ、暮れなずむ黄土高原を一路平遥へ向う。

午後10時洛陽から走る約8時間、マイクロバスは段村という辺りが真っ暗なガソリンスタンドに給油のため入る。

給油中、何故か運転手が車のナンバープレートを付けはじめた。手元が暗くビスが入らずなかなか付かない。

平遥まであと残り70Kmあるらしい。おい！おい！運転手さん何時になったら平遥に着くんだろうよ？

PM11:20 ついに平遥着。真夜中であるが目の前に黒々とそびえている城壁が目に入る。

夕食を取っていなかったので城門前の店で食べることにした。時間は夜中の12時近いので軽い食事をする事に決まり、全員「牛肉面」を注文。店の老板はお湯を沸かし日本人の客ということで注文に期待したのであろうに全員「牛肉面」だけで少し機嫌斜め。こんな遅い時間に店に入って済みません！女の子はテーブルで寝ていた。

真夜中の古城内を警笛を鳴らしながら、電動カートでくねくね曲がってホテル”洪善驛酒店”に到着。

ホテルは「客棧」と呼ばれる商人宿の名残りととどめた四合院作りである。赤い提灯に照らし出された中庭を撮っていると、大きな荷物を背負ったガイドの邹进嬢が自分の部屋がわからないとロウロしている。

似たような玄関が次々と出てくる、迷宮のような作りになっている「客棧」に迷ってしまったようです。



4/26（晴）旅行4日目 平遥古城内で終日過ごす。今夜は連泊なのでゆっくり観光が出来る。

昨夜は遅くベットに入ったが寝ている時間が惜しく、朝5:30に起きて街に出る。地図を片手に東の方に向う。

朝日を浴びた民家の壁が輝いている。明代らしき門の下を荷車を引いた馬が朝日を浴びて城内に入ってくる。

テレビの中国紀行物や旅の本などに掲載されているような景色が今、目の前に展開されている。

中国の人は朝が早い。清代の平遥の政府役所だったという建物が現存する衛門街通りで、通りを掃いている老太婆がいたので「早上好！今天

天气真好」と挨拶をしたら「何処から来たの？」「年齢は？」など聞かれた。

おぼつかない中国語で答えたら、親指を上げて「好！好！」と言ってくれた。わかってもらえたかな？

私の夢のひとつは挨拶程度の中国語会話が出来、北京から列車に乗って平遥を訪れることだった。今、平遥の街に来て、片言ながら老太婆と会話をしている自分を見て、「夢って叶うんだな！」と強く思った。老太婆に”谢谢 您，再见！”と別れ城壁の方に急ぐ。朝日を浴びた城壁が見えて来た！胸が高鳴ってくる。

城門をくぐり外側から見た城壁は、朝日を浴びて灰色のレンガが紅色に染まっている。

櫓のついた城壁は先がかすんで見えないほど続いている。城壁の下の広場ではここでも多くの人が音楽に合わせて太極拳をやっている。カメラのシャッターを城壁に向けて何回も押し続けた。9時の城内見学に出発する時間に遅れてはと思い戻り道を急ぐ。すると、左側に通りをまたいだ古楼が見えた。



地図で確認すると平遥のシンボル「市楼」である。宿に戻る時間を気にしながら市楼の下を通過（この市楼にはこの後、3回も登ることになるとは・・・）先ほど老太婆と出会った衛門街に出て宿に戻る。朝飯の時間が足りない。熱々の麺を一碗と一杯のコーヒーで済ませる。でも至福の2時間余りの散歩であった。

9時2台の電動カートに分乗して北門まで行き、世界遺産平遥古城の碑の前で記念撮影をし、城壁に登る。

城壁は灰色のレンガが約10mの高さで整然と積み、古城内をぐるりと6kmの長さで取り囲んでいる。

城壁の上から望む城内は明・清時代らしき古い建物や街の通りが俯瞰できる。

城壁の上は3~6mの幅がある通路になっており、城壁内の反った瓦で出来た家並みや平屋根にオンドルの煙突が付いた民家を眺めながら、ぐるりと一周することができる。一周するには2時間位の時間がかかるそうだ。

今日は平遥に終日いるという日程から、私たちは城壁の上をガイドの田さんの説明を聞きながら、のんびりと城内外の街並みを見ながら2km位歩いた。とても満足した城壁観光をすることが出来た。

城壁を降りて休憩は茶館に入る。茶館に入っても男性陣は”要啤酒！”。茶館に啤酒は置いてないので田さんが外から瓶啤酒を買ってきました。コップがないのでラッパ飲みで一息！（田さん、麻烦你了。）休憩後平遥のシンボル「市楼」に登る。市楼は城内の中心地にあり、南大街の通りを跨いで建つ高さ20m余り2層3楼の壮麗な木造の楼閣である。（市楼に登るには料金が5元）市楼から望む明・清時代の街並みはまるで映画のセットのようである。市楼の下を通る南大街の両側には、昔の看板を掲げた店舗が建ち並んで、その景観は明時代の昔にタイムスリップしたようであった。

昼食後は地元名産の漆器店や三晋剪紙（切り絵）などのお土産店に寄りながら、城内の史跡めぐりをする。

ここ平遥は5世紀の北魏王朝の時から平遥と呼ばれ、今なお明代の城壁がほぼ完全な形で保存されている中国唯一の街として知られている。又、平遥は「票号」という近代以前の金融機関が中国で初めて始まった地でもある。その金融業の祖である「日昇昌」や「票号」の仕組み、元から明代までの政府役所であった「古衛署」等を見学する。市楼の近くにある作り酒屋「長昇源」では作業場まで入らせてもらい、甕に

入った「黄酒」を嗅ぐ。かの西太后が西安に向う途中に平遥に立ち寄った時、この黄酒を絶賛したという。「黄酒」を購入。

夕方、ホテルに戻り埃っぽい身体なのでシャワーを浴び、红灯の点り始めた夕暮れの街に夕飯を食べに出る。

夕飯は平遥の家庭料理店に入る。夕飯後はこの店の2階にあるマッサージをする組と夜の散策組に分かれる。

私は夜の散策組に入る。柱に貼られた赤い紙、红灯が灯る夜の街並みは、妖しいほどの美しさを見せる。

市楼はライトアップされていた。城内の家並みは低く、二階建ての建物であっても灯りが点されているのは一階が中心なので、暗い夜空を背景にライトアップされた市楼は息を呑む美しさだった。

市楼への夜の登楼は終わっていたが無理を言って登らせてもらった。通りのみが明るくそれ以外は暗闇。今、日本は震災後の電力不足が報じられているが、本来夜はこのような暗闇が当たり前なのではないのかと思う。

夜の散策を堪能してホテルに戻る。まだ時間が早いので四合院作りの中庭で、Kさんとガイドの邹进嬢と酒盛りを始めた。戻ってきたマッサージ組と合流し、ガイドの田さんと日本の俳句、魏の曹植の「七歩の詩」を論じ、李白の「静夜思」を朗読すると田さんがリズムカルに吟じ始めた。唐詩をこよなく愛するNさんが「唐詩の韻をふむ」の解説と、四合院での語らいは日中文化教室になってしまい、座は楽しい夜の帳に包まれた。

旅行はまだ4日目、このあと旅は黄土高原に咲く杏の花。晋祠の水にまつわる故事。五台山での七と十の小姐。



仏教の聖地五台山の寺院群。奇想天外な懸空寺。世界遺産の雲崗石窟の仏像群、邹进嬢とのカラオケ、北京景山公園から眺めた故宮の全景と凄かった本場の黄砂。これらを書いていくと、長い長い旅日記になってしまいそうなので、私の「河南・山西省世界遺産の旅」は、旅行4日目平遥編のところで筆を擱くことにします。

少しは中国語で挨拶ができた私。夢だった平遥の城壁を歩いた私。これは”中国語を学ぶ会”の仲間を知り会えたからこそ実現したことです。素晴らしい旅行計画を企画する渡邊さんに、ほんの少しだが私が中国語で挨拶が言えるようにまで指導してくださった李老師に、そして中国が大好きな仲間の皆さんに、それぞれ感謝とお礼を申し上げます。 太谢谢您了！

中国語を学ぶ会の旅に参加して

(河南省・山西省に行く。酒にかかわるエトセトラ)

木曜クラス:中島 好光

水席に 手を突っ込んで 夏料理(洛陽)

洛陽故城の真不同飯店

水席(すいせき)は洛陽の名物料理

昨日少林寺の帰りに食べられなかったので今日食べられて満足！真不同飯店 面白い名の料理屋でした。

天下第一宴 水席真不同かなりのこだわり料理でした。

この店に 宮廷衣裳がおいてあり、かわるがわる着てファッションショー則天武后や楊貴妃がたくさん誕生しました。

本ブログに掲載しなかったのは、美を競うあまりに殺し合いの闘いに発展

するのを恐れたからであります。

更に更に 杜康(とこう)酒

憧れの酒に出会えて どっぷりと酔いを尽くしたのであります！



夏兆す 杜康の味に どっぷりと

「短歌行」

曹操

対酒当歌 酒に対して

まさに歌うべし

人生幾何 人生

いくばくぞ

譬如朝露 たとえば

朝露のごとし

去日苦多 去る日は

はなはだ多し

概当以懐 概してもって 懐すべし
幽思難忘 ゆうし 忘れがたし
何以解憂 何をもってか うれいを解かん
唯有杜康 ただ 杜康あるのみ

“杜康(とこう)”とは初めて酒を造ったとされる伝説上の人物であり、酒の異称でもある。

味よりも 名前嬉しい 夏の酒

平遥に 黄酒ありて 桐の花(平遥)



写真は上から、街んなか・由緒ある “昇源黄酒”の造り酒屋の跡継ぎおやじ・マッサージ店(二階)一階は飯屋・獄 悪いことをするとお仕置きされる最悪は死刑かも

平遥古城は

それなりに きれいにしてあり

それなりに 由緒ある店も多く

それなりに 景観もよくて

それなりに 伝統芸もあるらしく

それなりに 落ち着いた街であり

また来て見たいな~っと思いました!

夏は来ぬ 伝統技に 切り絵あり

切り絵も有名ならしい、みんな沢山買っていた

酔いもまわり マッサージ店の中中国語の研修の為おねえさんに 話し

かけると後ろのほうで 笑い声が聞こえる

随分歩いたから、きもちええ~

話しかけると、どうやら 鍛え上げた魔法の指に力が入るようだ

イタツ イタツ イタ~

脚を しごかれて~ しばられて~夢心地でございました!

しごかれて 脚筋痛し 初夏の風

平遥古城はいいところだから、また来ることにしよう!

そのときは、あの跡継ぎおやじといわくつきの銘酒“昇源黄酒”にどっぷりと浸りたいとおもう。

由緒ある 昇源の酒 夏来たる

酔いのあと 風の涼しき 五台山(五台山)



山西省に有名な酒あり。

そは杏花(きょうか)村の汾酒杏花村は汾陽県にあり。

高粱を原料にする銘酒「汾酒」と「竹葉青」を醸造することで知られる。

山西省の中央部に 汾水 が流れそれに沿って 汾陽 汾西 臨汾 等の町がある。

汾陽は汾水の北側にあるから陽であり 汾陽もし南にあれば汾陰となる。

ガイドの言うことも少しは覚えているもんだ！

二枚目 杏花村産かどうか確かめなかったけど汾酒と書いてあるから汾酒だよな！

たしか我らの李老師が授業中に杏花酒を飲むべしと言っていたような
ないような それがこの酒かも？

写真を拡大してみたら杏花村とかいてあるから間違いないようだ！

杏花村 実によい名前ですね～

行って見たい！ 杏の咲く時期にきっと桃源郷ならぬ 杏源郷があるかも
もしれませんよ～

一番上は誰なんだって？

さあ～てね～ 魯智深の妹です！

怒らずと怖いよ～

誰ですか サントリーダルマだろう なんて言うのは？

一言もしゃべらず 達磨の如し

目つきのみが鋭い！

平常心 是即ち 座禅なり！

物言わず 汾酒を飲まば 初夏の風

会員の手記

5人の老师

星期三班 蜂屋和男

私が中国語を学ぶ会に入会したのは15年前です。当時クラスは水曜クラスが初級クラス、木曜クラスは上級クラスの2クラスでした。

私が入会したのは、当然初級クラスです。入会員は20名ぐらいでした。

多数の新会員が入会したので、2時間の授業のうち1時間はピンインの勉強、残りの時間は、先輩たちと一緒に勉強しました。

江老师が初めて中国語を教えてくれた先生でした。女性の方で中国では医者資格を持っていると聞きました。授業では新人相手の勉強なので、老师に今思えば失礼な質問をして老师を困らせた思い出があります。

当時中国語を学ぶ会で初めて中国旅行を行いました。参加者に新会員が多く授業の外に旅行用の勉強しました。効果は？思い出せない。

2人目は李老师。

水曜クラスは松原公民館で行いました。当時は生徒が多く教室の机だけでは足りず、隣の部屋から机、椅子を持ってきて勉強しました。この当時は女子高校生、女子中学生も一緒に勉強しました。

李老师は中国人で独身の女性でした。彼女は愛国心が強く、性格もきつい中国の女性でした。授業の勉強は教科書で勉強しましたが、質問で文化の違いの話になると日本の文化はおかしいと言う人でした。

3人目は田老师。

女性の方で、小さな子供がいると言っていました。たしか、横須賀から通っていました。

彼女は文化の違いなどの質問にも、日本人に不愉快を与えないように答えていました。

勉強も楽しかったです。

4人目は若山老师。

この時代は会員も減少し老师の謝礼金が足りなく、新人を募集し新会員のための火曜クラスを立ち上げました。

若山老师は中国残留孤児の方で当時55歳の日本人女性のかたでした。東海大学で準教授でした。若山老师は日本語が得意でなく授業は中国語で話されるので私には聞き取れませんでした。特に中国の古い習慣、歴史をよく知っていました。話し出したら止まりませんでした。懐かしい思い出です。

この時代は水曜クラスと木曜クラスが合併し新しい水曜クラスになりました。上級クラスの会員と一緒に勉強なので授業の内容もレベルアップしました。特に教材にピンインが付いていないので単語を調べるのに時間をついやし苦労し疲れました。授業の内容は難しい単語、文法など出ると、元上級クラスの人が、図書館で調べコピーし次の週全員に配り勉強しました。5人目は李老师。

現在習っている老师は皆さん知っているので簡単にします。

授業は楽しく参加させてもらっています。今までの老师と違う点は、日本語が良く理解できるので意思が伝わることです。だから理解しやすいです。

それと、現代の中国の情勢を伝えてくれるのでとても参考になっています。

最後に私の中国語の勉強を続けるわけ

niánlǎo jìyì lìjiǎn tuìjīnshénméijìnér
年 老 记 忆 力 减 退 精 神 没 劲 儿。

wǒ xué hàn yǔ shì fángzhǐ shuāi lǎo de hǎo fāngfǎ , jīnhòu jiǎng jì
我 学 汉 语 是 防 止 衰 老 的 好 方 法 , 今 后 奖 继

xù nǔ lì
续 努 力。

国桂林旅游

2011.1.11 額田 幸也

shǒu xiān , cóng zhōng guó guì lí nǚ gěi dà jiā sòng qù xīn nián de zhù fú 。
首先，从中国桂林给大家送去新年的祝福。

zhù dà jiā xīn nián kuài lè wàn shì rú yì , yǐ hòu yě qǐng dà jiā duō duō guān zhào 。
祝大家新年快乐，万事如意，以后也请大家多多关照。

まず、中国桂林より新年の祝詞を送ります。新年おめでとう、万事うまくいきますよう本年もよろしく。

zhè cì qù guì lí nǚ yóu de mù de shì xué xí hàn yǔ hé guì lí nǚ guān guāng 。 píng shí xué xí dào de hàn yǔ , xiǎng jìn kě néng de yòng shàng , duō duō jiāo liú 。
这次去桂林旅游的的目的是学习汉语和桂林观光。平时学习到的汉语，想尽可能的用上，多多交流。

今回の桂林旅行の目的は中国語の勉強と桂林観光ですが、普段勉強している中国語を現地ですできるだけ多くの機会をとらえて使ってみる事です。

第一天， zài bàng wǎn de shí hòu , jīng yóu shàng hǎi dào dá guì lí nǚ 。
在傍晚的时候，经由上海到达桂林。
guì lí nǚ xià zhe yǔ , bǐ xiǎng xiàng zhōng lěng de duō 。 wǒ men de tuán duì chéng yuán 13 rén , zài qǔ xíng lí shí yǒu 1 gè
桂林下着雨，比想像中冷得多。我们的团队成 员 13 人，在取行李时、有 1 个

rén de xíng lí bú jiàn le 。 dà yuē 30 fēn zhōng hòu dǎo yóu
人的行李不见了。大约 30 分钟后导游

hé dà jiā dōu fēi cháng de dān xīn ,
和大家都非常的担心，

dào le zuì hòu hái shì zhǎo dào le , dà jiā dōu fàng xīn le 。 wǎn
到了最后还是找到了，大家都放心了。晚

fàn dà jiā zài fàn diàn kāi xīn de chī le yǐn chá liào lǐ 。
饭大家在饭店开心的吃了饮茶料理。

夕方定刻に上海経由で桂林に着いた。桂林は雨で思ったより寒かった。桂林に着いたら 13 人ツアーグループの 1 人の荷物がみつからないので、30 分ぐらいガイドさんや皆が心配しました。やっと見つかったので皆は安心しました。夕食はホテルで飲茶料理を楽しんだ。

第二天， zǎo shàng 6:30 zhōng qǐ chuáng 。 8:05 cóng jiǔ diàn chū fā ,
第二天，早上 6:30 钟起床。8:05 从酒店出发，

zhè cì lǚ xíng zhōng zuì měi lì de yóu lí jiāng kāi shǐ le 。 zì
这次旅行中最美丽的漓江开始了。自

rán dǎo zào de shān shuǐ shì guì lí nǚ yóu de jīng huá
然打造的山水是桂林旅游的精华

guì lí nǚ shān shuǐ jīng tiān xià yě jiù shì shuō guì lí nǚ de
「桂林山水甲天下」也就是说桂林的

shān shuǐ tiān xià dì yī yī lù zì rán de shān shuǐ huà lián xù
山水天下第一，一路自然的山水画连续

bú duàn , zhēn bú kuì yǒu zhe shì jiè yí chǎn zhī gǎn 。 cóng
不断，真不愧有着世界遗产之感。从

shì jiè gè dì lái de kè rén chéng zuò de yóu chuán fēi cháng
世界各地来的客人乘坐的游船非常

duō 。
多。

第2日目、朝6:30起床、8:05ホテルを出発。今回のメイン観光の漓江下りに入った。自然が造り上げた景観をめぐる漓江下りは、桂林観光のハイライトである。「桂林山水甲天下」と言われるように桂林の風景は天下一で、まさに水墨画そのものの世界が続き、さすがは世界遺産の見る価値があり、世界中の観光客で船は一杯だった。

wǒ mén cóng zhè gè chuán shàng tiào wàng le zhōu wéi de jǐng sè yī zhí
我们从这个船上眺望了周围的景色一直

dào yáng shuò 。 dà yuē yǒu 4~5 xiǎo shí 。 xià chuán hòu , jiù yǒu xī jiē sǎn
到阳朔。大约有4~5小时。下船后,就有西街散

bù le
步了。

この船から周囲の景色を眺めながら終点の陽朔まで約 4~5 時間下つて、下船後西街を散歩した。

yī zhí dào dì èr tiān , zài fēi jī chǎng , zài fēi jī shàng , jiǔ diàn ,
一直到第二天,在飞机场,在飞机上,酒店,

chuán zhōng , dōu yǒu hé zhōng guó rén shuō huà jiāo liú 。
船中,都有和中国人说话交流。

dì sān tiān hòu wǒ xiǎng shuō gēng duō hàn yǔ 。
第三天后再我想说更多汉语。

2日目まで、飛行場、飛行機の中、ホテル、船の中で中国人に話しかけて目的の中国語をいっぱい話した。3日目から更に多くの機会をとらえて中国語をさらに話したい。
(第3日以降は別の機会



に報告させていただきま
す。)



何これ?! !

月曜クラス 久保田利昌

1、 加賀屋

能登和倉温泉の旅館“加賀屋”は、“おもてなしNO1旅館”として大変有名です(小生には残念ながら一泊4万も5万もする所には縁がありませんが)。



しかしこの写真の“加賀屋”は???と察した方はさすが。そうです、昨年末に新規オープンした台湾の“加賀屋”です。加賀屋の日本流“おもてなし”をそのままに実現し、現在台湾で大変な評判

のようです。宿泊料金も3万円以上します(1泊2食で)。場所は台北の郊外の北投温泉です(MRT中山駅から30分ほど)。北投は台北から近く大変人気のある温泉です。公衆温泉(水着必着)もあります。日本国内の温泉にあきた方は是非訪れてみてはどうでしょうか。

2、 婚活

先般の大震災後、日本でも急激に婚活の傾向が高まってきているとか。かの夏木マリもフランス婚から正式結婚に一と。

この写真は、今年の5月1日の上海人民公園でのものです。俗に、日本では“釣書”なる婚活履歴書（何と古い表現か）がありました。これはそんな生易しいものではありません。如何に自己主張が強いお国柄と言えども、ビックリです。“35歳以下で社長か社長の息子でなきゃイヤ”とか、家がなければダメとか一。上海事務所の31歳の独身所員（西安大学かな、日本語科出身）とその場を歩いていると盛んに“良い子だよ。どうだ！”と仲人婆さん（40～60代ぐらい）に言い寄られました。お父さん、説得してよ一と。



3、 時速 300km 超

中国の高鉄（日本で言う新幹線）に初めて乗りました。上海虹橋駅（高鉄専用駅）から蘇州駅までに 100k 未満の短い距

離でたった 30 分弱の乗車ですが、その速さを実感してきました。中国の高鉄特急の名称は“和諧号=he2 xie2 hao4=仲良し号？です。スタイルは東北新幹線の“はやて”に似ているか（台湾の高鉄と似ている）。車内も同様です。上海駅を出ると物の数分で 300k 以上、この日は最速 322k でした（中国国内最速は 350k との事）。日本の新幹線は 300k 未満、台湾は丁度 300k です。ただし、先日、中国当局は一部を除き安全の為、最速を 300k までにするとの報道がありました。一気に、描いた通りに完成させてしまう中国の政治・行政の腕力に感心しますが。高鉄虹橋駅ターミナルは虹橋空港の新ターミナルと接続して建設しているのも合理的で驚きです。（羽田空港に新幹線を乗入れさせた感じです）



中国の話題から

一人っ子政策の申し子「80後(パーリンホウ)」

中国では人口抑制を目的に、1978年から「一人っ子政策(计划生育)」が敷かれていることはよく知られています。

これによって中国の新世代は原則、すべて一人っ子(独生子女)になりました。

中国の両親たちがひと粒種にける期待と愛情は大きく、この間、経済的に潤ったことも相まって、子どもたちは甘やか

された末に「小皇帝」などと呼ばれています。

その第一世代、80年代生まれの若者は「80後(パーリンホウ…中国語では“80后”)」とセグメントされ、社会的にさまざまな意味で注目を浴びています。

恵まれた経済環境、屈託なき消費への意欲、好奇心の旺盛さから今後、中国の消費をけん引する存在としても各業界から期待されています。

中国の経済成長とともに育ってきた彼らは、貧しさも苦勞も知らないという点で、それまでの世代とは大きく異なるパーソナリティを有しています。

結果、わがまま(自私)で打たれ弱く(软弱)、流行に敏感(赶时尚)で、伝統的観念にとらわれず、他人とは異な

った個性(另类…直訳では「違う種類」を意味し、多数派と異なりユニークであることを意味する)を重視する…そんなイメージでくくられています。

また、80後世代特有の存在として「宅男(オタク)」「蚁族(ワーキングプア)」「啃老族(パラサイトシングル)」なども社会的に認知されています。

しかし、経済的に豊かだからと言って彼らがけっして幸せということではなく、両親からの過度の期待による重圧や、予測のつかない将来に対する不安など、大きなストレスを抱えているのも事実です。こうした要素が彼らから夢やバイタリティを奪い、刹那的な生き方に導いている気がしてなりません。

では、関連ニュースから80後についての例文をご紹介します。

■在许多人看来，“80后”是温室里长大的幸福一代，但调查显示，他们的幸福感却普遍不强，过半自认压力大于70后。

多くの方は「80後」を温室育ちの幸せな世代と考えているが、調査によると、彼らは一様にそれほど幸福感を感じておらず、半数以上が70年代生まれの世代よりも大きなストレスを抱えていると考えている。

※「在许多人看来」は「多くの人の考えでは」。「许多」は「很多」と同じ意味、「看来」は「～と見る、みなす」という意味です。「长大」は「成長する」、「温室里」の「里」は「～の中で」という意味ですから、「温室里长大」は「温室で育つ」ということです。「他们的幸福感却普遍不强」の「却」は「予想に反して、意外にも」というニュアンスを文章に与えます。「普遍」は「全体的に」。「过半自认压力大于70后」の「过半」は「过半的80后」を省略した主語です。「自认」は「自己认为」、「自ら～と考えている」。「压力」は頻出単語。ストレスやプレッシャーという意味です。「大于」の「于」

は比較を表し、後ろにつくものと比較して「～より××である」という意味を作ります。「压力大于70后」で、「プレッシャーは70年代生まれより大きい」です。これは「压力比70后大」と言い換えることができます。

zhùfáng hūnliàn jìngzhēngyālì fùmǔ shànyǎngděng
■ 住房、婚恋，竞争压力，父母赡养等，
gòuchéngle hòu qīngniánpǔ biànmìnlíndexiànrí
构成了“80后”青年普遍面临的现实
jiāsùǒ
枷锁。

住宅、恋愛と結婚、競争へのプレッシャー、両親の介護などが、「80後」の若者が普遍的に向き合っている現実の足かせである。

※「构成」は「構成する、形作る」。この場合は、「住居などの要素が、80後世代の足かせを形作っている」ということです。「面临」は直面する。「枷锁」は「束縛、抑圧」という意味です。

dìzhènzá yì 地震杂忆

李 老師

láirìběnyǐhòu dìzhèntàiduōle gāngláideshíhòuhènhài pà màn
来日本以后，地震太多了。刚来的时候很害怕，慢

màndǎo xíguànle
慢地习惯了。

kěshì yuè hàodezhècì háishìbèizhèndǎole
可是3月11号的这次，还是被震倒了。

dìzhènrìtiānzāi rénlèizàizìránzāihàimiànqiányǒushíhòuzhēnde
地震是天灾，人类在自然灾害面前有时候真的

shìwúnéngwéilì zhècìdìzhènde zuìdà sǔn shāngshìhǎixìàohéhéxiè
是无能为力。这次地震的最大损伤是海啸和核泄

lòu nàxiēshìqùdeshēngmìng xīwàngtāménānxī
漏。那些逝去的生命，希望他们安息！

wǒmenzhèxiē yǒuxìng huó zhe de rén yě yào zài zāi hài zhōng fǎn xīng hé nǚ
我们这些有幸活着的人，也要在灾害中反省和努

lì dì zhèn hòu shōu dào le shì jiè gè dì péng yǒu qīn rén de wèi wèn hé bāng
力。地震后，收到了世界各地朋友，亲人的慰问和帮

zhù xīn lǐ gǎn xiè
助，心里感谢！

jiǔ wèi lián xì de péng yǒu yě dǎ diàn huà gǔ lì rǎn wǒ nán wàng
久未联系的朋友也打电话鼓励，让我难忘！

dì qiú shì quán rén lèi de shì jiè shì bú kě fēn de
地球是全人类的，世界是不可分的，

gè gè guó jiā hù xiāng bāng zhù dì qiú cái huì gèng měi hǎo
各个国家互相帮助，地球才会更美好。

jì rán zāi hài wú fǎ yù cè jiù yào zhēn xī yǎn qián de xìng fú shēng huó yī bù
既然灾害无法预测，就要珍惜眼前的幸福生活，一步

yī bù xiàng qián zǒu nián zhōng guó de sì chuān dà dì zhèn shōu dào
一步向前走。2008年中国的四川大地震，收到

lái zì shì jiè de bāng zhù
了来自世界的帮助！

nián dōng rì běn de dì zhèn yě shōu dào le lái zì shì jiè de bāng zhù
2011年东日本的地震，也收到了来自世界的帮助！

rén lèi shì xū yào hù xiāng bāng zhù de yóu qí shì zài tiān zāi de shí hòu rén dào yīng
人类是需要互相帮助的，尤其是在天灾的时候，人道应

gāi fàng zài zhèng zhì de qián miàn
该放在政治的前面！

編集を終えて

歴史の重さを感じています。38年前先輩たちの努力でこの会が発足し、発展してきました。時代の流れ、紆余曲折、幸いにして40名以上の会員も出来、「いはいお」も33号となり、アーカイブを見るにつけいろいろと感じさせられました。今後も皆さんと努力をしあって後輩に笑われないような会にしなければならぬ、気を引き締めましょう。 渡邊